

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和6年3月定例会

議席番号7番
中田 孝信議員

1. 行政における PPAP 問題について

(1) 議会事務局などの含めた各部署からのメールによるファイル送信は、暗号化した ZIP ファイル送信し、別のメールにてパスワードを送信する通称 PPAP を利用しているが、採用した経緯や現行のセキュリティ対策としての妥当性について伺う。

(2) 今後も PPAP を利用するのであれば、メールによるファイル送信とメール以外によるパスワードの通達という多要素化の必要があり、その場合には書面や SMS によるパスワード通達が必要となるが、実務を担当する職員や利用者への増える負担について、どう考えるか。

2. エコパークいずもぎきの第二期処分場跡地の活用について

(1) ふるさと納税額を増やす方針を町長は掲げているが、納税額向上に向けてエコパークいずもぎき第二期処分場跡地を以下の方法にて返礼品に含めることが可能か、または今後検討する考えはあるか。

①納税額に応じてイベント会場等として場所を貸し出しすること。

②また納税しなくてもイベント会場等として賃料を支払い利用することが可能かどうか。

3. 要援護者トリアージについて

- (1) 自然災害などで発生する避難者において、傷病や要介護度などによって避難所における生活スペースの振り分けや病院や福祉避難所への移送など不可避であり、その基準となる要援護者トリアージが必要となると思うが、執行部として策定することは可能か伺う。

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和6年6月定例会

議席番号7番
中田 孝信議員

1. 町内から大学等へ通学する学生への通学費用補助について

(1) 町内から大学や専修学校等へ通う学生は将来的に町にとってかけがえのない人的資源となりうるものであり、その学生たちを町として支援すべきであると考えているが、町内から通う大学生等に対して通学費の補助を行うために新たに制度を設けることを提案する。

1-1 高校生を対象としている通学費補助制度の拡充

1-2 自家用車で通学する学生のための燃料費補助券の新制度

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和6年9月定例会

議席番号7番
中田 孝信議員

1. 行政における PPAP 問題のその後について

(1) 3月定例会にて質問した PPAP 問題について、新潟県が運用するファイル交換サービスを利用して改善を進めていくとの回答を得ているが、その後の進捗について伺う。

(2) ファイル交換サービスの利用以外にも情報セキュリティにおいて改善、または変更等をした点について伺う。

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和6年12月定例会

議席番号7番
中田 孝信議員

1. eスポーツによる地域振興について

昨今、パソコンやゲーム機を利用したeスポーツが世間的にも認知されるようになり、プロとして活躍する選手も国内外を問わず輩出されるなど新しい文化として定着していると認識している。その最たる例としてIOCが2023年に開催した「オリンピック・eスポーツ・ゲームズ」であろう。

eスポーツはその性質上、実際に激しく身体を動かすものではないため、健康増進からは縁遠いものと見られているが、年齢や体力に関係なく遊べる点、手指を使う動作による認知症予防、他者とのコミュニケーションによる世代間交流・社会参画促進につながるのではないかと、また、全国的にも地域活性化の一助としてeスポーツを活用しようという試みがあり、本町においても地域振興の一助として活用できないかと考えている。

以上を踏まえ次の点について質問する。

- (1) 本町においてeスポーツを推進していく予定はあるか伺う。
- (2) eスポーツのもたらす健康増進（認知症予防など）について認識を伺う。
- (3) 長岡市において寺泊、栃尾地域にそれぞれeスポーツ設備を設置し、地域住民が自由に利用できるようになってきているが、本町においても町民体育館または町内公民館などにおいてeスポーツの実施設備を新設し、町民が自由に利用、観戦等交流できる仕組みは検討可能か伺う。

2. イラストレーター起用によるふるさと納税について

本町のふるさと納税増額を進めるべく、若年～青年層向けの返礼品が少なく、新規開拓に向けこれらを対象とした返礼品を増やすのが良いのではないかと考えている。具体的には北海道えりも町において、返礼品企画に参加しているイラストレーターから一人を選び、デザインをリクエストし、イラストを作成してもらい、NFTアートとしてそれを受け取るという

たものである。

出雲崎においても同様にゆるキャラや景色を利用したイラスト（絵画）を返礼品として追加することが可能か伺う。

3. 町内で結婚写真等を撮影するカップルへの支援について

本町は夕日の美しい町、そしてデートスポット、縁結びのパワースポットとして最近では株式会社ネクストレベルの運営する「縁結び大学」においても2024年11月1日付の更新で紹介されている。

また、夕風の橋を撮影場所に結婚写真の撮影の需要もあり、実際に本年9月には結婚写真の撮影が行われ、撮影した夫婦からは非常に好評であった。さらに出雲崎に移住とまでは行かずとも、別荘を構えたいとの要望も聞いている。

このような事例から、町への移住を促進するために町独自の制度を直接役場から説明受けたり、町のコマーシャルを視聴してもらい、その代わりに写真撮影や町でパーティーをしてもらう費用を補助する等の制度は検討可能か伺う。